

# 担任の先生へ

話すことが苦手な子どもについて

## 〇場面緘黙とは

場面緘黙とは、特定の状況（例えば家庭）で全く自由に話せるのに、特定の状況（例えば、園や学校）で話せないことが1ヶ月以上続く状態を言います。特定の人、場面では少しはしゃべることができてはいても、日常生活に支障がある場合は場面緘黙と診断されることがあります。割合的には女兒に多いです。出現率は0.2~0.5%ぐらいと言われています。



具体的には・・・

### 大人しい子供とどう違うのか

大人しい子供は環境に慣れてくると1か月ぐらい経つと徐々にしゃべるようになります。場面緘黙の子は、慣れとは別次元の不安や恐怖が背景にあると考えられています。

### なぜ話せないのか～場面緘黙の経験者から～

- ① 声を聞かれるのが怖かった
- ② 話そうと思うとのどがぎゅっとしまった感じになっていた
- ③ 人の反応や他者からの否定的評価が怖かった
- ④ もともと家以外の場所で話すのが苦手で、何を話せばよいのかわからなかった



### 場面緘黙児への誤解

#### ×自分の意思で「話さない」

「話さない」のではなく、「話せない」のです。反抗的にわざと黙っているとも誤解されることがあります。



#### ×そのうち慣れる

早期の支援が必要です。不安症やうつ病、不登校などの二次障害に苦しむ場合があります。

#### ×喋らないだけ。学校ではその他は問題ない

場面緘黙児は行動が抑制されており、大変大人しく見えます。園や学校は困らないので、本人が困っていても見落とされ、放置されがちです。



#### ×家庭の愛情不足なのでは？もしくは甘やかしすぎなのでは？

虐待やネグレクト環境で場面緘黙になる子は、ほんの一部です。保護者が過保護なのでは、というのは古い研究に基づいた考えです。

#### ×しつけがなっていない

返事をしないことが多いので、無視をしていると誤解されることがあります。

#### ×わがままだけ

場所・人・活動などの状況によって態度が変化する点や、こだわりがあり融通が利かない点を、わがままと誤解されがちです。

#### ×緘黙児は内気なはず。

緘黙傾向がある子の性格は様々です。

#### ×1人でぼつんといても平気そう

表情には不安が現れないことがよくあります。

#### ×うなずきや首振り、筆談を許していたら、甘やかしになる

非言語的なコミュニケーションを充分行うことが、発話へのステップを進めます。

#### ×少し話せるんだから、場面緘黙ではない

少し話せる場合、かえって周りの理解が得にくいことが多いです。少し話せる子にも、場面緘黙としての対応が必要です。また、計算問題など答えがはっきりしている質問には、答える場合もあります。



話さない以外にこんな様子も見られます。

- 体の動きがぎこちない。もしくは動かない。  
緘動と言われる状態です。原因ははっきりとはわかっていませんが、校門を入った途端、動けなくなる子供もいます。
- 逆に体に力が入らない、筆圧が弱い。

## ○担任の先生にお願いしたい配慮事項

### ① 話すことを強制しないでください。

「言ってみてごらん」「小さな声でいいから」など話し出すのを待つことは、注目を必要以上に集め、心理的な負担を大きくします。ただ、「どうせできないから（順番を）飛ばしてあげよう」などと勝手に順番を飛ばすこともよくありません。

### ② 指さしや筆談を積極的に利用してください。

大切なのは、コミュニケーションを取ることです。音声以外の手段ができるなら利用しましょう。ただ、筆談などを嫌がる子供もいます。

### ③ たくさん話しかけてあげてください。

ただし、最初はあまり目をみつめないようにして、横から話しかける方がよいです。何か得意なことをさりげなくほめて自信をもたせてください。



### ④ 本人が話したときは、騒がないでください。

話したことに着目されすぎると、また話すことへの抵抗感が強くなります。このことは、他の児童にも伝えておいてください。

### ⑤ 行事などの新しい状況には、前もって準備しておきましょう。

どう慣れさせておくか、ことばの教室の教員に相談してくださって構いません。前年度の映像などを用いて、見通しをつけさせておくことも有効です。

### ⑥ 恐怖を与えないでください。

大きな声や乱暴な言葉遣いにとっても敏感です。他の子に向けたとしても怒鳴る、大きい声で注意するなどは禁物です。



### ⑦ 保護者の協力を得てください。

保護者の不安はとても大きいです。協力を得られることはお願いしましょう。保護者に放課後や休日に教室や校庭に入って遊んでもらうことはとても有効だと言われています。

## ○ことばの教室では

まずは、担当者と信頼関係を築くことを第一に考えます。話すことを強制せず、本人が好きな活動や得意な活動を設定し、楽しく通う中でこの人の前では安心できるというような空間を作ることを目指します。



その後、在籍学級担任や保護者と連携を密に取り、どうしたら学校生活の中でコミュニケーションがとれるようになるか本人と相談していきます。時には、小グループ活動を設定し、児童同士のコミュニケーションの練習をしていきます。本人の気持ちを第一に、適応できるよう長い目で見守っていただけると助かります。

引用・出典：『イラストでわかる子どもの場面緘黙サポートガイド アセスメントと早期対応のための50の指針』  
合同出版 金原洋治 高木潤野 著

「かんもくネット」[kanmoku.org/kanmokutoha.html](http://kanmoku.org/kanmokutoha.html)

